

『ボクは坊さん』

吉水英人

2015年 ファンタム・フィルム 99分

監督 真壁幸紀

原作 白川密成

脚本 平田研也

出演 伊藤淳史、山本美月、溝端淳平、

濱田岳

「映画の感想を書いてみないか」と言われてから初めて見たのが、ROBOTO製作の「ボクは坊さん。」だ。

私自身は、次男坊の息子で団地住まいが長かったため、お寺さんとはあまり縁のない生活を過ごしてきた。ところが10数年前に菰野町千種にある妻の実家に土地を分けてもらい、田舎に引っ越した。勿論、ヨソ者なので近所のお寺さんの檀家にはなれないが、近所の方が亡くなると葬儀や報恩講などの行事に参加することになった。先代のお坊さんが亡くなり、息子さんが跡を継いでから檀家の長老たちから不評の声を聞くようになった。お葬式や結婚式の多様化により人々の人生の節目を見守る機会が減り、地域の「顔」としての役割を担えないのが原因のようである。

さて、映画「ボクは坊さん。」は24歳の主人公・光円が

突然の祖父の死をきっかけに四国八十八か所霊場・栄福寺の住職になることから話が始まる。初めて見る坊さん専用グッズや個性豊かな檀家の人たちとの関係に試行錯誤を繰り返しながら、僧侶として人として成長していくお坊さんワールド。説得力たつぷりに光円を演じるのは、ビリギャルの塾講師役など人情味あふれる演技に定評のある伊藤淳史。光円を取り巻く人々を演じるのは、山本美月、溝端淳平、濱田岳、松田美由紀、そしてイツセー尾形など個性的なキャストたちが感動のドラマを盛り立てる。

特に昨年10月に放映されたテレビドラマ「釣りバカ日誌」のハマちゃんを演じている濱田岳の存在感が目を引く。光円と一緒に高野山大学を卒業するも一般企業に就職し、挫折する若者像をコミカルに演じている。濱田は「自分に才能があるとしたら、人に恵まれる運、人運」だと言う。これからも名監督に出会い、濱田が醸し出す存在感を引き出してもらい、平成のハマちゃん・寅さんに成長して欲しいと願う。